

# ベースボールカフェ

NO.10

2019年2019年8月3日  
三好ベースボールアカデミー  
三好泰宏

TEL・FAX 011-897-3535  
携帯 090-59892587

E-mail: [my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp](mailto:my.baseball.1977@jcom.zaq.ne.jp)

## ご挨拶

最後の夏を賭けた3年生の野球は終わりました。それぞれに思いがあり汗と涙を流してきました。そんな中、大船渡高校の佐々木投手の決勝登板回避が全国的话题になっています。高校野球は教育の野球です。教育は監督が行いますが、選手も自分の意志をしっかり持たなければなりません。



## エースとは

部員が多くても少なくても、強くても弱くても、エースはエースです。その役割は、チームの大黒柱として活躍しなければなりません。

極論ですが、信頼できるエースがいなければ甲子園出場は難しいです。ですから、監督のチームづくりはエースづくりから始めますが、選ばれた投手は大黒柱として期待に応えなければなりません。

今年の北照のエース・桃枝丈君は、昨年の甲子園は2年生でメンバーに入れず打撃投手を克服してエースとなりました。監督は彼の努力を見抜いての抜擢であったと思います。一人で投げ抜いて期待に応えました。

3年前、98回大会で準優勝した北海のエース・大西健斗君（慶応）も一人で投げ抜きました。

甲子園出場は、エースを中心にチームが一致団結しなければ達成できません。エースは一人で投げ抜く力と強い意志を磨かなければなりません。

この度の大船渡高校の佐々木投手の問題は、監督の判断です。投手を思い、勝利主義を優先するか、個人の将来性を優先するかであります。賛否両論がありました。現行の規定で戦うと、後者では、高校球児の夢・甲子園は達成できません。

ここで考えることは、高校野球は教育の野球です。昨年、新潟県高野連の投球制限を日本高野連は認めませんでした。大きな課題となりました。これにより指導が変わるからです。

球児が3年間、グラウンドで流す汗と涙は、社会に出て実らせるものであります。指導者は、悔いが残らないような指導が出来て、その先に甲子園があるという指導が一番ですが…。